

— 視力の検査をしましょう —

遠視の見え方

遠視では
ものがぼやけて
見えます

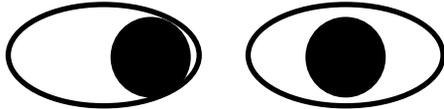


ハハハのハーちゃん
©2000 やなせたかし/高知県



強い遠視や、遠視の度数に左右差がある場合、治療をしないでいると、弱視になる場合もあります。

片方の眼が内側による



片方の眼に強い遠視がある場合に
よく見られます。治療をしないと弱
視を起こします。

乳児期より6歳まで視力は発達し
つづけます。3歳の時点において、
多くの児が0.5以上見えるようにな
ります。

3歳から6歳までは視力や両眼視
機能が育っていく時期にあたります。
またこの時期までに、視覚の異常を
発見して治療できると、回復がいい
といわれています。

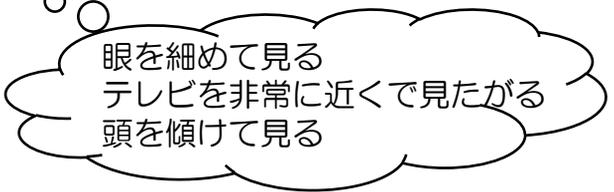
この時期の眼科の問題は、速やか
に受診して、小学校にあがる前まで
に解決しましょう

両眼視機能：左右の眼を同時に使う機能により、
遠近感や立体感が分かるようになります。

3歳のお子さんでは・・・

- 屈折異常 30人に1人
(主に遠視、乱視、遠視性乱視)
- 斜視 100人に1人
- 弱視 100人に1人

○ こんなことはありませんか？



3歳児健診では、視力0.5に相当する輪の切れ目が見えるかどうかを家庭で
チェックするという方法で検査を行っています。

4歳の時点では、ほとんどのお子さんで検査のやり方が理解できるようにな
ります。健診のときに検査ができなかった場合でも、4歳までにもう一度ご家
庭で検査をしてみてください。

大きな輪（ランドルト環）では切れ目の方向が指させるのに、小さな輪（ラ
ンドルト環）で切れ目が指せない場合は、速やかに眼科を受診しましょう。